

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24531178

研究課題名(和文)書字学習における幼小連携を円滑にする教材の開発

研究課題名(英文)A study about the writing learning for an infant and the elementary school lower grades child

研究代表者

齋木 久美(SAIKI, KUMI)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：60361284

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：小学校入学を機に文字の系統的な学習が開始される。多くの幼児が文字に関心を持ち、ひらがなを書けるようになっているが、その書き方の多くは自己流であるため、小学校での書字学習に支障を来している。しかし、これまで幼小連携の視点のもとで、書字の指導の系統性を持たせようとする実践的な研究がほとんどなされていなかった。そこで幼児や小学校入学後の書字の実情を整理し、書字に関する幼小連携を円滑にする支援について検討を行った。書字の際の姿勢や筆記具の持ち方を改善する運筆教材やひらがなを整えて書くことができる教材を作成し、幼児や小学校1年生の児童に取り組ませたところ成果が得られた。

研究成果の概要(英文)：The Japanese children start the learning of the letters in first grade of Elementary school institutionally. However, many children can really write letters in their way before entrance to the school. Because their ways of writing are not taught by trained teachers, the posture while writing, durability of writing implements, and form of letters written by them include many errors and problems. These errors and problems course many obstacles for the later study of letters. To solve these obstacles, consecutive educational program from kindergarten to the elementary school is necessary. In the present study, we developed new teaching materials for children of this period. Clear effects were accepted after teaching the writing letters for the children of the kindergarten and first grade elementary school students with using the materials.

研究分野：書写書道教育

キーワード：幼小連携 書字支援 運筆練習 書字姿勢 色付きマス

## 1. 研究開始当初の背景

すでに40年前に就学前と小学校入学後の文字指導の関連について検討が必要と問題提起がなされているが、検討されていない。現在においても未だ、書字学習が習得できるだけの十分な発達のない状態の幼児に対し、小学校の内容を前倒した書字への教授・援助が行われている。

### (1) 小学校入学後の姿勢や筆記具の持ち方の実情について

小学校入学後の書字学習における問題の多くは入学以前の書字のあり方に起因するが、小学校入学後の児童の書字に関する実情は次のようになる。

#### 児童の書字に関する実態

学習の基礎となる書字活動のためには、よい姿勢や手指に負担のかからない筆記具の持ち方の習得が欠かせない。しかし大半の児童が入学時に自己流の持ち方で姿勢もよいとはいえない。

#### 書字指導に関する実情

入直後の児童の書字に関する意識や知識は多様であるが、文字のなぞりを中心にした一斉指導が行われているため、個別の対応が難しい。

また就学前児の実態をふまえて、小学校入学後の姿勢や筆記具の持ち方の指導を行う必要があるが、その指導が形骸化しており、書字に関する幼小連携が推進されてこなかった。

#### 改善を阻害する要因

入門期の書字指導が大切であることは認識されていても、小学校1年生の担任は他の学年とは異なる多忙さの中で学習指導を行わなければならない。また担当者が決定するのが、新年度新学期の直前であり、指導方法に関する実践的研究を推進していくことが難しい。

### (2) 幼小連携の視点のもとで、書字の指導の系統性を持たせようとする実践的な研究がほとんどなされていない。問題となる実態は次のとおりである。

幼児が文字に対して興味を持つのは自然な姿であるが、書字学習が習得できるだけの十分な発達のない状態で幼児は文字を書き始めており、小学校入学後で行われるような指導を行っても、字形、筆順、あるいは鉛筆の持ち方の修正ができない場合がある。

幼児が文字に興味関心を持つきっかけの

多くが自身や家族、友だち名前である。特に文字に興味を持つと早い時期から自分の名前を書くようになる。しかし、姿勢や筆記具の持ち方も整わない状態で書き始めるため、とめはねなどを無視した書き方になっている。このため、早い時期から書き始めた名前の文字ほど、自己流の書き方が定着してしまい、小学校入学後の改善も難しい。

幼児は5歳前後から積極的に文字に関わろうとするが、姿勢や鉛筆の持ち方が自己流であるため、小学校での指導が矯正される指導となり、負担となっている。

### (3) 保護者は入学前に自身の子がひらがなを一通り書けるようにしておきたいと考え、幼児向けの学習教室や文字ノートなどを利用するが、幼児の発達をふまえていないものがあり、家庭での取り組みが逆効果となっている場合がある。

幼児期により姿勢を身につけることが健康面だけでなく、小学校での書字に関する学習基盤形成に関与していることを、保育者が理解し、よい姿勢の指導をする必要がある。

小学校低学年で指導すべき姿勢や筆記具の持ち方の指導が形骸化され、小学校の指導者自身も困難さを感じている。

## 2. 研究の目的

幼小連携の視点による書字に関する支援が必要であり、幼児の発達をふまえ、保育者、小学校指導者および保護者の連携を目指した書字指導の実践的な研究を推進していくことが必要である。

幼児の幼児期の書字における運筆と字形についての分析から、発達と書字についての考察を行い、幼児期の書字に関する課題とその対策の一端を提示する。

幼児にとって望ましい書字教材とよい姿勢や筆記具の持ち方を身につけるための具体的な提案を行なう。この提案が小学校での書字活動に効果的に接続するためのものとなるよう実践により成果を確認する。

就学前の書字の関わりをふまえ、文字学習の入門期における教材を作成し、その効果的な書字の学習指導方法を検討する。

## 3. 研究の方法

### (1) 幼児が取り組むことができる教材の開発 幼児がよい姿勢や筆記具の持ち方ができ

るような教材や支援方法を開発する。

幼稚園で実施できる教材を作成し、実践によってその効果を検証する。またその様子を保育者に観察してもらい、聞き取り・アンケート調査によって、その成果を確認する。

## (2) 小学校 1 年生向けの効果的な書字教材の開発

入門期のひらがな指導の考え方を整理し、小学校 1 年生を担当する教員と連携した実践を行ない、入門期の効果的な書字指導の検討を行なう。

他の学年とは異なる多忙さの中で学習指導を行わなければなら小学校 1 年生の担任との連携方法を模索し、入学直後の書字に関する指導方法を実践的に研究する。

小学校 1 年生が姿勢や筆記具の持ち方を意識し、それを実践できるよう、1 年生向けの運筆練習教材の開発と指導方法を検討する。

## 4. 研究成果

### (1) 幼児の書字に関するレディネスについて

幼児期の書字における運筆と字形についての分析から、発達と書字について明らかになったことは以下の通りである。

#### 年中児の場合

- ・図形描写では三角、菱形が描きにくい。
- ・斜線の運筆は難しい。
- ・線の長さ、形で筆圧が変わる。
- ・交差する線のある文字（お・せ）やむすびのある文字（す・よ）は書きにくい。
- ・すでに書字への教授・援助を受けている幼児がいる。

#### 年長児の場合

- ・多くの年長児が意図的な図形の描写ができる。
- ・筆圧は年中児より全体的に高い。筆圧の強すぎる幼児が見られる。
- ・斜線を引くことは直線より難しい。
- ・線を引く際、罫の幅が狭いほど運筆は停滞する。
- ・図形の描写と書字の達成度は無関係。
- ・書字と運筆の差が著しい。
- ・字形の整っている幼児の運筆は良い。

年長児に見られる書字学習のレディネスが十分でない場合の実態

- ・文字の視写はできるが、名前がきちんと

書けていない。

自分の名前が十分に書けない、文字に鏡字が多い、書字方向がおかしい、書きなぐりになっている、といった特徴が見られる。

- ・図形描写はできるが直線が引けない。
- ・図形描写も直線を引くことも十分にできていないのに、平仮名の視写はできている。
- ・書字取得レディネスは十分であるが、適切な文字指導がなされていない。

以上のように書字と運筆に偏りがあり、このような偏りが、入学後の書字を困難にする要因となっている。

### (2) 幼児に対する効果的な書字支援に関して

書字の際のよい姿勢を習得させるためには、筆記具の持ち方に気をつけながらよい姿勢を意識して、腕を使って長い線を引くような運筆練習に効果がある。よい姿勢が保持できない幼児の場合、取り組む時間を少しずつ長くしていくなどの個別支援を行うとよい。

ひらがなの字形や筆使いを習得させるためには、書きながら筆使いを意識できるような記号を付けた運筆練習用紙を用いると効果がある。

ひらがなを構成する線をマスのどの位置に書くと整うかについては、色付きマスを使用すると、幼児は色を手がかりに長さや方向に気をつけて線を書くことができ、効果がある。



図 1

図 1 は、年中児が上段の平仮名を見て、その下に視写したものである。ひらがなを構成する線がどの色のところにあるかに気づき、同じように視写することができている事例である。

個人差はあるが、集団での支援が可能になるのはおおよそ年中児になってからである。特に、書字に必要な、運筆や線の始点・終点を認識する技能が十分に備わっていない場合に、書字させると、姿勢や持ち方がよくない状態での書字が定着してしまい、その後の改善が難しくなる身体的、認知的発達を十分に考慮しなければならない。

先行事例や幼児向け市販教材での書字支援のほとんどが、「なぞり」によるものであるが、身体的な発達が考慮されない状態で、早期になぞりによる書字を開始した場合、就学直前の年長児の中に、ひらがなの音と字形の対応が不十分であるため、なぞ

ることができても、ひらがなの字形を認識することになっていないという事例が確認された。

幼児期の文字に対する関わりは、幼児の興味関心によるもので、このこと自体は望ましいことである。字形や筆順の誤りがあったとしても、主体的に関わったことによるものと受け止めつつ、小学校での学習に対する興味関心を持たせるような働きかけが望ましい。

効果的な書字支援により、幼児が姿勢を意識して書字する様子を観察した保育者は、姿勢と書字の関係を把握し、書字の幼小連携について意識を持つことが確認できた。

### (3) 小学校1年生に対する書字指導に関して

運筆の支援には、姿勢を保持するためのものと書字のためのものの、2種類が必要である。

よい姿勢で運筆を行なうためには、上体を安定させ、腕を大きく動かして長い線を書くを運筆練習に効果がある。

書字練習の際、4分割したマスに異なる色を付けた、色付きマスを用いて取り組ませると、色を手がかりにして、ひらがなを構成する線の長さや書く位置を理解させやすくなり、書字に有効である。



図2

図2の上段は、名前の一部に「か」がある児童の入学直後の文字である。下段は同一児童が、色付きマスに書かれた示範文字を見ながら視写したものである。ピンクのマスから書き始め、白のマスまで線を引いてはね、2画目のななめ線、3画目の点を適切な位置に書けていることがわかる。

### (4) 児童の書字に対する意欲関心を高めるための学習方法について

入学時に多くの児童がひらがなの読み書きができるようになっているが、その書き方は自己流があるので、小学校での学習は字形や終筆に留意した書き方を学ぶことをしっかり意識させる。

### 実践の内容

児童が「知っている」「書ける」というひらがなであっても、その書き方は自己流であるので、学習したひらがなのみ学習した字形で書くようながしたところ、早く自分の名前のひらがなを学習したい、と児童の関心意欲が高まり、これにより書字技能も向上させる

ことができた。

字を書く上では、姿勢や筆記具の持ち方にも留意することが大切であることを実際に運筆練習を行なって実感させるようにしたところ、児童が姿勢や持ち方を意識して書字に取り組むようになった。また、この成果によって、小学校1年生の担任と、姿勢や筆記具の持ち方に留意させる方法、字形を整えて書く教材の効果を共有することができた。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

齋木久美、「小学校入門期のひらがな書字指導に関する一考察」茨城大学教育学部紀要(教育科学)第64号,325-334頁 2015(査読無)  
<http://ir.lib.ibaraki.ac.jp/handle/10109/12613>

齋木久美、「小学校一年生の平仮名書字学習に関する一考察」、『茨城の国語教育』第14号,50-57頁. 2015(査読無)

齋木久美・塩出智代美・国本さやみ、「幼児に対する書字支援に関する研究—色付きマスを用いて—」、『書写書道教育研究』第28号,31-36頁. 2014(査読有)

齋木久美、「幼児期の書字に関する課題とその対策に関する一考察」『書写書道教育研究』,第27号,84-89頁. 2013(査読有)

〔学会発表〕(計1件)

齋木久美・塩出智代美『幼児期の書字に関する課題とその対策に関する一考察』,全国大学書写書道教育学会 第27回(京都大会),2012.10.7,京都教育大学(京都府・京都市伏見区)

### 6. 研究組織

(1)研究代表者

齋木 久美(SAIKI KUMI)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号:60361284

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

塩出 智代美(SHIODE CHIYOMI)